分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和4年10月時点での成果と課題	令和4年度の成果と課題・今後の方向性
				中間	期末	総合		
教務部	学力向上	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に課題を持つ生徒が多数入学してくる本校の状況を踏まえ、各教科で基礎基本を重視した指導の充実を促進する。 ・基礎補充・基礎固め学習会・大学生教育ボランティアによる補充等を昨年に引き続き実施し、成績不振者への指導を継続する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎補充については夏休みに2回、基礎固め学習会については、1学期末考査前に実施した。出席状況については、やや低調で、引き続き根気強く指導していく必要がある。 ・家庭学習推進週間についても、予定通り実施しているが、Classiへの入力状況が低調なことなど、課題も多く自主的な学習習慣の確立に向けて引き続き指導を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、教務が学力向上に伴って企画した指導計画（基礎固め学習、基礎補充、家庭学習推進週間、持ち帰り指導、等）についてはすべて予定通り実施した。取り組みの内容については、教科や分掌、学年部の協力を仰がなければならないものばかりである。そのため、城陽高校に入学して来る生徒の状況を踏まえ、今後も、教科、分掌、学年部等と連携を強化し、各指導の趣旨や目標を共有し、引き続き根気強く指導に取り組んでいきたい。
		学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、学年部と連携し、家庭学習推進週間など自主的な学習を促進する取り組みを企画、実践する。 ・Classi等の学習ツールを活用し、教務部の取り組みの強化・充実を図る。 	3	3			
	授業改善	充実した授業の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・教員生徒相互の信頼関係を基盤に、落ち着いた規律ある学習環境づくりを促進する。 ・ベル始業、授業はじめ・終わりのあいさつ、携帯電話の注意等引き続き全教職員で一致した指導を行う。 ・第1学年生徒には観点別評価を実施し、主体的に学習する態度を育成する指導を推進する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業については、概ね落ち着いた雰囲気のもと実施できている。今後も全教職員の一致した指導の下規律ある学習環境づくりを継続する。 ・6月に公開授業週間を実施した。2学期にも公開授業週間・授業アンケートの実施を予定しており、夏休みに行われた教育課程研究協議会の内容を踏まえて、教科内で交流する予定である。 ・教職員の授業等でのタブレットの使用についても徐々に浸透してきており、今後さらにICT教育の推進を図っていきたい。 ・1学期末に1年生から観点別評価が導入されたが、大きな混乱もなく実施できた。今後さらに研究を深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業については、概ね落ち着いた雰囲気のもと実施できている。今後も全教職員の一致した指導の下規律ある学習環境づくりを継続する。授業を長期欠席する生徒の増加が見られ、学年部、保健部等と連携し、対応できる体制を強化していきたい。 ・本年度1年からの新学習指導要領移行に伴う観点別評価への移行については大きなトラブルもなく対応できたと思う。今後は観点別評価の趣旨に則した評価になっていくよう、各教科での研究を促進していきたい。 ・来年度は、2年で総合的な探究の時間（2単位）を実施する。その運営については、教務部が主体となり、担当者等と連携を取りながら、円滑に実施できるよう取り組んでいきたい。
		教科の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学び、行動する生徒の育成を目指し、学習に対するモチベーションの向上を目指す。 ・公開授業、授業アンケート、教科内交流等を実施し、指導内容、指導方法の工夫改善を促進する。 ・授業公開等を企画し、電子黒板、タブレット等のICT機器の使用を促進する。 	3	3			
		新指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度第1学年で実施していく観点別評価について、生徒の状況や、校内や近隣の状況を確認しながら、調整を図る。 ・総合的な探究の時間の実施計画の具体化を図り、教職員への周知を図る。 	3	3			
	図書館教育	読書内容の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・活字離れとマンガ中心の利用が多い現状を考え、広報活動などを通じて、活字主体の図書の利用を増やす。年間の貸出冊数の50%を活字主体の図書とすることを目指す。（昨年度39%） 	2	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・読書内容は未だマンガ中心の利用が多い状況（貸出冊数の50%以上がマンガ）であり、今一層の広報活動が必要である。 ・図書館としての情報発信は十分できていない。今後の課題である。教科との連携は国語科を中心にうまく機能している。今後も十分な資料提供を行ってきたい。 ・図書委員会活動は役員を中心に「本の木」などの新たな取り組みができた。広報活動も順調で昨年度以上の発行を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動では新着書リストのみでなく本の紹介も行い、活字図書の利用を促したが、貸出は7割がマンガ、次いで文学2割といった現状である。しかし、貸出を利用していないが様々な本を読んでいる生徒もいるようなので、来年度はこういった生徒の需要にも応えてきたい。 ・図書館に関する情報発信は特に、教職員に向けて不十分だったと思う。人員減の多忙もあるが、業務内容を見直し、来年度はもっと図書館のことを多くの教職員に知ってもらいたい。教科、分掌との連携では、資料、機材の提供を遅滞なく行えたと思う。 ・図書委員会では前期の「名言の木」に加えて、後期では生徒のアイデアによる「読書感想画」の取り組みが新たにできた。また、イベントの飾り付けでも積極的にアイデアを出してくれた。広報活動は2回しかできなかったが、ビデオ上映会が盛会の内に2回できたことを、図書委員ののんびりとして評価したい。来年度も生徒の様々なアイデアを取り入れて活性化を図りたい。
		教科・分掌との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の存在意義についての情報発信を行いながら、各教科・学年・分掌などと連携し、図書館利用を通じて基本的な情報検索・活用能力を養う。環境整備面ではコピー機の導入を考える。 	2	2			
		図書委員会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を取り入れながら読書週間などの取組を見直し、成功させる。また、昨年度以上の広報活動ができるように、生徒に助言・アドバイスを行う。 	3	3			

令和4年度学校経営計画 自分掌 最終評価

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和4年10月時点での成果と課題	令和4年度の成果と課題・今後の方向性
				中間	期末	総合		
基本的 生活習慣		生徒が学校に軸足を置いた生活が送れるように、さまざまな指導を全教職員で連携して行う。	・各学年・各教科と連携し、全教職員で生活面での指導を行う。また、遅刻については各担任と連携を取ることで、早期に指導し、遅刻の回数が10回を越える生徒がでないようにする。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部と連携をとり、指導を行うことができている。ただ、遅刻については10回を超えている生徒が1名おり、5回を超える生徒は10名いる。 ・1学期と2学期に警察やボランティアと連携をとり、登校指導を行うことができた。今後も連携を取って継続していきたい。 ・携帯電話等の指導については現在7件で、昨年度より減少傾向ではある。しかし、電源の切り忘れによる口頭注意(14件)を含めると昨年度より増加しており、今後も授業開始時の規律確保を確認していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣において学年部や城陽警察、地域ボランティアとともに連携を取りながら指導に取り組んでいる。来年度も継続して連携を図り指導を行いたい。 ・遅刻者数(実人数および延べ数)や携帯電話等の指導数は減少傾向にある。 ・遅刻や身だしなみ指導に関して、例年と変わらず複数回遅刻や違反をしてしまう生徒が一定数いる。このような繰り返し指導が必要な生徒に対してどのように手立て・支援を行い、指導していくかが今後重要であると考え。
			・登校指導、下校指導を城陽警察や地域ボランティアとともに行うことで登下校マナーを徹底するとともに、登下校中の事故(特に自転車事故)防止に努める。	3	3			
			・授業開始時の規律を確保するとともに、タブレットや携帯電話等のルールを毎時間確認し、携帯電話等の指導を減少させる。	3	3			
特別活動	部活動・生徒会活動・ボランティア活動を活性化させる。	・全クラブで挨拶、礼儀、清掃活動などを行うことで活動の活性化を図る。また、各行事において部活動員が積極的に参加することで、学校運営の柱となれるようにする。	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も各行事において、部活動員の運営によって準備・後片付け等を行うことができている。今後の行事等についても、部活動員が中心となり、運営していきたい。 ・1学期には未活動者に対して指導することで、改めて継続できる部活動がないか探させることができた。2学期についても、調査等を行い、未活動者への指導を行っていきたい。 ・生徒会活動だけではないが、コロナ禍で地域と連携をとることが少なくなっている。しかし、今後は各行事やボランティア活動で中心となって活躍できるように計画していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告に引き続き、各行事において部活動員や生徒会役員が中心となった生徒主体の行事が行えた。来年度以降も生徒主体で運営する行事を計画していきたい。 ・未活動者については、引き続き学年末にも調査を行い、3年間部活動を継続できるように指導を行い、部活動加入を促したい。 ・コロナ禍によって生徒会や部活動が地域と連携を図り、行事に取り組む機会が減少したが、その中でも少しずつ取り組みが戻りつつあり、コロナ前のように地域と一緒に活動していきたい。 	
		・1年生部活動一斉加入では、未活動者がでないように各部活動で継続的な指導を行い、生徒が活動できる場を提供する。未活動者については学期ごとに活動状況を把握し、指導を行う。また、2・3年生についても3年間継続できるような指導を行う。	3	3				
		・生徒会活動を中心にして、各委員会やボランティア活動を活性化し、地域に求められる学校となれるように積極的に広報活動を行う。また、各行事においても中心となり、学校運営の柱となれるようにする。	2	3				
いじめの防止	いじめの定義について全教職員で把握し、いじめに対して早期に対応できるようにする。	・職員会議等がいじめの定義について共有し、生徒について情報交換を行うことで早期に対応できるようにする。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に職員会議にて、いじめの定義について確認し、共有することができた。いじめ調査において、集計後、いじめ対策委員会を開くことで、情報を共有することができた。今後、組織として対応できるように学年部と連携を取り続けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に職員会議でいじめの定義について確認、共有した。 ・いじめ調査において、第1回また第2回と集計後いじめ対策委員会を開くことで、情報を共有することができた。 ・来年度も組織として速やかに対応できるように学年部や関係機関と連携を取り続けていきたい。 	
		・いじめ対策委員会を開くことで、情報の共有を密にし、組織でいじめに対して対応できるようにする。	3	3				
人権教育	学年や分掌・教科と連携しながら、さまざまな人権問題について学習を深め、人権尊重の実践的態度を育む。	・3年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・人権だよりを13号発行し、教職員にフィードバックを行うことができている。引き続き3年間を見通した人権学習を実行できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権だよりを19号発行し、継続して教職員にフィードバックを行った。今年度は大きな変更もなく計画通りに実施することができた。 	
		・「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての教職員にフィードバックする。	3	3				
キャリア教育の推進および希望進路の実現	生徒の進路に対する意識を高め、希望進路の実現に向けた意欲と学力を向上させるとともに、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。	キャリア教育実施計画に基づいて進路学習を充実させ、家庭・地域との連携を柱とした「TAG城陽」の取組を推進する。また、就職の複数応募制度や新学習指導要領に対応した新入試への研究を深める。	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育実施計画に基づき、WITHコロナ時代に合わせた取組を実施した。生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けて今後も取組を推進する。また、就職一人一社制が近畿の一部府県で見直され、今後の動向を注視していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育実施計画に基づき、WITHコロナ時代に合わせた取組を実施した。就職補講や進学補講、土曜教室、業者模試等を積極的に実施したが、自ら進路を切り開く能力を身に付けさせるには、まだまだ課題がある。 ・また、就職一人一社制の見直しや新学習指導要領での令和7年度入試の在り方等を見据えて、今後も積極的に情報収集や研究を行い、質の高い進路指導を実践していく必要がある。 	
		就職補講や進学補講、土曜教室、業者模試等を積極的に実施し、生徒が自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。	3	2				
		「進路のしおり」の充実を図り、最新の進路情報を適切に提供するとともに、学年部と連携し生徒とのカウンセリングの機能を高める。また、ICT機器を活用した進路指導を推進する。	3	3				
進路指導部								

令和4年度学校経営計画 自分掌 最終評価

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和4年10月時点での成果と課題	令和4年度の成果と課題・今後の方向性
				中間	期末	総合		
保健部	保健管理	生徒の理解（教育相談）と支援	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断や健康相談を実施し、生徒の健康状態の把握と指導に努める。 担任や教科担当者と生徒の情報を共有し、教育相談会議を通して、支援につなげる。 特別支援教育の視点を活かし、支援対象生徒の把握と支援に努める。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は健康診断当日に学級閉鎖により受診できないクラスが複数出たが、1学期中に追加の健康診断を行い、問題なく終了することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断当日に学級閉鎖により受診できないクラスが複数出たが、1学期中に追加の健康診断を行い、問題なく終了することができた。 教育相談会議を定期的に開催し、配慮の必要な生徒について学校として支援できた。 考査支援が必要な生徒に対して、先生方の理解と協力を得て、適切な支援を実施することができた。
	校内研修	教職員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QUや教育相談等をテーマとした校内研修会を実施することで、生徒理解における教職員の指導力向上を目指す。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 京都府スーパーサポートセンターの先生に講演いただき、発達障害のある生徒におけるICT機器の利用法について、実習も含めて具体的に学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 京都府スーパーサポートセンターの先生に講演いただき、発達障害のある生徒におけるICT機器の利用法について、実習も含めて具体的に学ぶことができた。
	安全管理	校内美化・環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 感染症拡大防止のための環境整備に努める。 保健委員会の活動の一環として校内美化に取り組む。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、アルコールシート等の消毒用具を準備、設置している。 保健委員会の活動として、1学期は健康診断の準備と黒板クリーナーの清掃や点検を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、アルコール等の消毒用具を準備、設置した。 前期保健委員会の活動として、黒板消しクリーナーの清掃を実施した。後期保健委員会は、点検活動や学校祭での活動を行った。
総務企画部	外部評価	学校評価アンケート等の実施手段のICT化に係る回答数確保	従前は紙媒体で実施していた学校評価アンケートのICT化に伴う回答数の減少を目指し、回答数の確保にむけた工夫を凝らす。	/	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年1月に実施予定であるが、昨年度に踏み切ったICT化による回答数の減少傾向をどう解決すべきか、方策を練る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度のClassi上のみ実施による回答数激減を改善すべく、今年度はPTAお知らせメール・紙媒体・Classi上の三方向から回答依頼を発信し、Googleフォーム上で回答いただく方法にあらためた。しかし回答数は昨年度よりさらに減る結果となってしまった。ただし、年度ごとの百分率の推移をみれば、本校がより良い方向に評価されていると分析することは出来る。
	家庭・地域社会との連携	PTA、各種関係機関との連携、協力を進めるとともにコロナ禍に対応した連絡手段を活用した運営に努める。	PTA諸会議の運営に係る打ち合わせ等について、夜間の会合を精選するとともにSNSによる連絡手段の活用などを行い、PTA役員等のより効率的な連携に努める。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中にありながら、文化祭における生徒支援事業をはじめ、本部役員の負担軽減を視野に入れた会合の精選等、時代に対応した事業運営が出来ているところである。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍への策を講じながら、時代に応じた事業運営ができた。 会員からの要望として、たとえば社会見学の実施時期を見直す等、さらなる会員参加を募ることが出来る事業計画を検討することも今後必要になってくると考える。
	広報	地域及び次年度生徒募集に資する広報活動を行う。	<p>「進化から深化へ」の新たなスローガンに基づき、視覚的訴求力のある情報発信に努めるとともに、「深化」していく本校の姿を山城管内中学校・保護者・学習塾等に広くアピールしていくことを目指す。</p> <p>昨年度から始めた「Happy城陽高校Life動画コンテスト」や「学校紹介ナビゲーター」募集を行い、可能な限り生徒の主体的な活動を広報活動全般の中心にした展開に努める。</p> <p>学校説明会等の開催にあたっては、可能な限りリモート配信等の手段を用いて、遠隔地からも参加出来るような開催の方法を講じる努力をする。</p>	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 9月学校説明会では、過去に前例がないほど多数の来場者があったことは喜ばしく受け止めている。11月説明会に向けて、web申込自動返信メール内容を刷新したことが、中学生・保護者の本校へのイメージ向上に繋がることを期待する。 生徒主体の広報手段について、役割を担ってくれる生徒が少ない点に若干苦慮している。 学校説明会のリモート配信については、全く手つかずで終わるかもしれない。仮に実現しようとする、総務企画部以外の手を借りることが不可欠になると予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会及び部活動体験への申込手段については9割以上がネット利用になってきている。ネット申込システムについては今年度中に改善した部分も多いが、今後さらに利便性向上に向けての努力は必要であろう。同時に、ハガキ・FAXによる申込手段は温存する必要がある。 ネットによる広報手段として、ホームページが担う役割は依然大きいと考えるが、より即時性のある手段として「公式SNS」による発信を実施する学校もある。ただしいずれの場合も「こまめな更新」が何より重要であることに変わりはない。 広報活動全般について、今後、いかに「生徒が主体性を発揮する」広報を実現するかは、さらに重要な課題である。
	国際理解教育	他教科・分掌と連携し、生徒がより国際的な視野を持つことが出来る内容を企画する。	年間LHR計画の中に国際理解教育講座を位置づけ、より生徒が興味・関心をもって学習することができる内容を企画する。	/	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 京都府知事直轄組織国際課「京都府名誉友好大使事業」の活用により、生徒在学中の3年間に見通しをもった企画運営を模索する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「1月に1・2年生で実施」の方向性はここ数年で定着することが出来ている。 今後、内容をより深めていこうとするのであれば、講演の前に講師の方の地政的・文化的背景等について事前に学習しておく必要もあると考えるが、それならそれで、さらなる時間が必要となる。 そのため、本校の「国際理解教育」のあるべき姿について「国際理解教育推進会議」において検討していく必要性を感じるころである。

令和4年度学校経営計画 自分掌 最終評価

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和4年10月時点での成果と課題	令和4年度の成果と課題・今後の方向性
				中間	期末	総合		
第1学年部	学習指導 進路指導	学習習慣の早期定着 新学習指導要領実施に伴う 進路指導の徹底	・タブレットの活用、学年通信等での学習に係る情報を定期的に伝えることで、学習の意義を理解させ、早期に学習習慣を付けさせる。 ・新学習指導要領の実施に伴い、受験に向けての情報収集や新教科・科目の内容等について、各分掌・教科と連携し、2年次以降のコース・科目登録にしっかり対応させる。	3	3	3	・タブレットの配布時期が7月にずれ込み、そのことに対する案内が保護者に伝わらず、不信感をもたれてしまった。 ・国語・体育でデジタル教科書を採用されていることや、学校や教科等からのプリントがClassiによる配信になったり、各種アンケート調査にも活用されたりしている。	・さらに多くの授業で「タブレット」の活用が求められるが、通信機能の問題もあり、次年度2学年での実施となると新たな問題も出てくるのが想定されます。 ・受験に関する情報はまだまだ不透明なままではあるが、進路部と情報共有して今後も進めていきたい。
	生徒指導	ルールの遵守、人権尊重の意識の定着	様々なルールをただ守らせるのではなく、理由を理解させようとしての継続指導をおこなう。適切な場面で、「人権尊重の考え方」に触れ、人権意識を高める。	3	3	3	・生徒指導が1件、ピアス・化粧・器物破損等の指導はあったが、比較的落ち着いたスタートは切れたようである。	・夏までは少なかった「反省文」を書かせる事象が増えてしまった。ルール以前の内容もあり、今後丁寧に指導を重ねていく必要がある。折に触れて「人権」に関する意識を高める取り組みをさらに充実させていきたい。
	特別活動	学校行事、部活動を通しての人間形成	部活動や学校行事を通して、生徒一人一人の自己有用感を高め、「城陽高校への思い」のこもった良好な学校生活の基盤を作る。	3	3	3	・太陽が丘での校外学習や文化祭を終えて、少しづつクラス内での人間関係に広がりが見られたようである。部活動不参加生徒の状況把握が必要と思われる。	・行事や集会での様子を見ると集団としては落ち着いて生活できているように思われる。部活動を変更する生徒が増え、実質的に日常活動している生徒が減少しているのが2年次以降心配な材料である。
第2学年部	特別活動 生徒指導	規律、規則の重要性を理解し、自ら考え、改善に向かえる力を身に付けさせる。	時間の遵守、挨拶の徹底等、人と関わっていく中で必要最低限のことを前提として、自ら考えて行動できる個人を育成し、規律ある集団の醸成を図る。	2	3	3	・様々な点で、指導が必要な生徒が多い。繰り返し指導をしているものの、改善に向かわない生徒が一定数おり、声かけから指導方法も含め、見直す必要がある。	・多くの生徒が規律の重要性を認識できるようになっていると思われる。一定、遅刻や身だしなみの乱れについて改善できない生徒もいるので、継続して指導が必要である。
		各種学校行事を計画的にすすめ、生徒の主体的な活動を育成する。研修旅行を軸とし、学校への帰属意識を高めていく。	2	3	・これまでの学校行事を通して、まだ十分に生徒に力や帰属意識を持たせられてはいないため、研修旅行を通して一定の成果があったと思われるように指導を進めていく。		・研修旅行や様々な学校行事に前向きに取り組み、仲間意識もついてきたように思われる。しかし、成績で伸び悩む生徒が、転学を安易に考える傾向であることはまだ否めず、密なコミュニケーションが必要である。	
	進路指導 学習指導	進路実現のために、自らの進路について真剣に考えさせ、その実現のための学力向上を目指せるように指導する。	丁寧な進路指導を行い、早期に進路目標、またはそれに値するものを持たせ、進路実現に向けた具体的な見通しを立たせる。進路実現に向け、日々の学習に前向きに取り組ませ、自ら学ぶ姿勢と学力の向上を図る。	3	3	3	・進路に関わる指導や活動は繰り返し行っている。その中で、自分の進路を真剣に考え、オープンキャンパス等を通し、進路選択、コース選択に取り組んでいる。しかし、それに見合った学習活動までは至っていないため、今後は学習のレベルを上げさせる必要がある。	・多くの生徒が進路の方向性を考えることができているように思われる。学年でも進路指導等を行い、生徒が進路について考える機会を作ることができた。方向性が定まった生徒もいるが、全体的に見て目標に見合った学習のレベルではないので、学習についての指導を継続していく。
第3学年部	特別活動 生徒指導	下級生の範となるべく、節度ある行動を実践できるように心掛ける。	主体性や思考力、協調性の成長を促す。	3	3	3	・文化祭では過去の経験がない中で一定の取り組みができ成果を残した。進学・就職に向けた指導を続行中である。	・特別活動の領域では主体的な取り組みを進める中で成果を挙げることができた。進路実現に向け、個に応じた指導を行った。
		各分掌や関係機関と連携して進学や就職に向けた適切な指導を行う。	3	3	・各生徒が希望する進路に向け日々努力を重ねている状況である。既に進路が決定した生徒の学習を中心とした学校生活への取り組みをしっかりとしたものにする指導が今後の課題である。		・今現在進路の実現に向け努力を重ねている状況であるが、大半の生徒が進路先を決定している。課題としては進路決定後の学校生活への取り組み姿勢に緩みが見られた。	
	進路指導 学習指導	希望する進路の実現に向けて努力を重ね、成功体験を実感できる機会を与える。	担任・教科担当・進路指導部が一体となり、保護者と連携を図りながら希望する進路の実現に向けて模索することで、自ら学ぶ姿勢と、学力の向上を図る。	3	3	3	学習環境を整え、目標に向かって最後まで努力する姿勢を養う。	
事務部	渉外	学校と住民・来校者等をつなぐための、迅速で適切な窓口対応、電話対応を行う。	学校行事、校時、教職員の動向の把握に努め、事務室内で情報共有する。 来校者の目的・用務先等を正確かつ丁寧に把握し、来校者が円滑に目的を果たせるよう努める。	3	3	3		・進路指導部への来客が多かったが、スムーズに案内できた。
				3	3			
	就学援助	生徒と保護者が安心して教育を受けることができるための経済的支援体制の充実に貢献する。	就学支援金や奨学金などの各種援護制度について、生徒と保護者へ周知が図れるようClassiやホームページの活用をより進める。 生徒に不利益が生じないように、状況に応じて学級担任や他分掌との連携を密にする。	3	3	3		・Classiの活用により、各種援護制度の周知は踏れたが、Classiの利用について全校的にもっと利用率が上がるよう工夫が必要である。
				3	3			
	施設設備	安心安全な学校の環境整備に向けて最善を尽くす。 特に新型コロナウイルス感染症対策のための施設設備の運用方法等について、留意する ICT環境野整備を図る。	状況改善のための迅速な対応に努め、生徒や保護者に向けた報告等を心がける。 令和4年度に実施される2棟トイレの全面改修工事について工事日程等をClassiを活用し迅速に生徒・職員・保護者等の関係者に伝達するよう努める。また、工事による生徒への影響を極力低くする工夫を行う。	3	2	3		・トイレ工事について、Classiの利用ができなかった。 ・工事期間中はトイレの個室数が不足したが、生徒の不便さを解消する手立てを打てなかった。
		新型コロナウイルス感染症対策のため、室内の換気や手洗いが充分に行えるよう留意するとともに、点検を充分に行う。	3	3			・換気のために冷暖房の効きはよくないと感想を受けたが、やむを得ないこととの一定の理解は得た。	
	ICT環境整備に向けて関係分掌との連携を図り、機器の整備に努める。	3	3		・プロジェクターの整備や消耗品等の充足が進んでいる。 ・次年度につながる整備が準備されている。			

中間評価では 数字による評価のみとする